

ザンビア共和国  
ザンビア大学獣医学部技術協力  
計画打合せ調査団報告書

昭和61年 2月

国際協力事業団



ザンビア共和国  
ザンビア大学獣医学部技術協力  
計画打合せ調査団報告書

JICA LIBRARY



1019449[6]

昭和61年 2月

国際協力事業団

国際協力事業団	
受入 月日 '86. 5. 30	533
登録No. 12732	87.9
	ADL

マイタロ  
フィルム作成

## ま え が き

国際協力事業団は、昭和60年1月22日から5年間にわたり、国際水準に合致した獣医教育を実施し獣医師を養成するため「ザンビア大学獣医学部技術協力計画」を実施している。

本報告書は、昭和61年1月15日から1月29日まで本プロジェクト協力期間の活動計画を作成するため、ザンビア共和国を訪問した計画打合せチームの報告をとりまとめたものである。

本報告書が今後、本プロジェクトの円滑な業務運営の参考になれば幸いである。

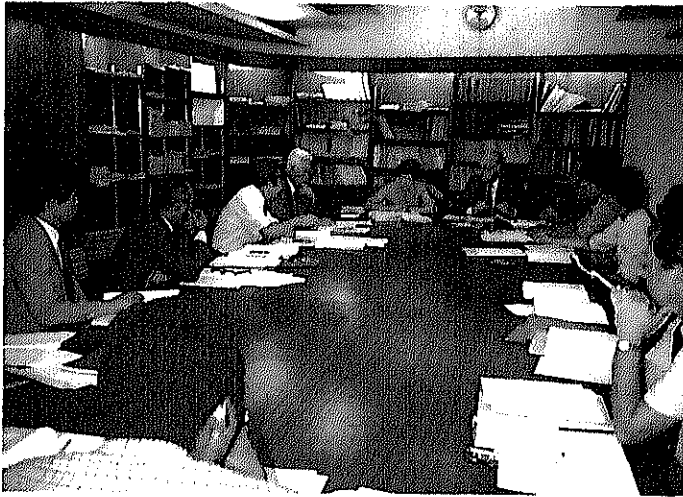
また、尾形団長以下計画打合せ作業の任にあられた団員各位並びに現地において協力いただいた関係者各位に深甚なる謝意を表すものである。

昭和61年2月

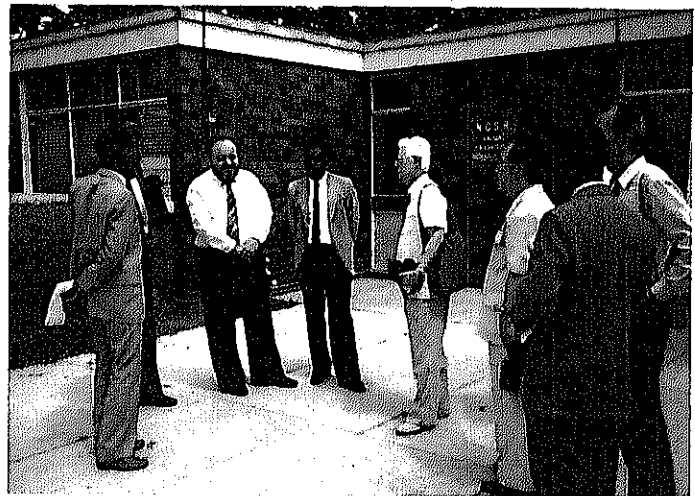
農業開発協力部長

田 内 堯





獣医学部における打合せ



NCSR(国家科学研究会議)の視察



供与機材の一部







合同委員会



病理解剖実習



病理解剖実習



# 目 次

第1章 計画打合せ調査団の派遣 .....	1
1. 経緯及び目的 .....	1
2. 調査団の構成 .....	1
3. 調査日程 .....	2
4. 訪問機関及び面会者 .....	2
第2章 計画打合せの概要及び結果 .....	4
1. 要 約 .....	4
2. 専門家派遣計画 .....	5
(1) 長期専門家 .....	5
(2) 短期専門家 .....	6
(3) J O C V .....	6
3. 研修員受入計画 .....	6
4. 機材供与計画 .....	6
5. モデル・インフラ整備事業 .....	9
6. 暫定実施計画 .....	9
第3章 その他関連事項 .....	9
1. J O C Vのプロジェクト参加とアカデミック・スタッフへの登用について .....	9
2. 日本人専門家のステータスについて .....	9
3. カリキュラムについて .....	9
4. 獣医学部の保安対策について .....	9
5. 病理学・微生物学・寄生虫学講座の名称変更について .....	10
6. 日本人専門家とJ O C V隊員の住宅について .....	10

資 料

1. RECORD OF DISCUSSIONS ON THE UNZA:VETERINARY EDUCATION PROJECT BY THE JOINT COMMITTEE(JICA MUTUAL CONSULTATION TEAM AND UNZA) .....	29
2. RECORD OF DISCUSSIONS OF THE MEETING BETWEEN THE JICA MUTUAL CONSULTATION TEAM AND THE UNZA, SCHOOL OF VETERINARY MEDICINE .....	37
3. FIRST MEETING OF THE UNIVERSITY OF ZAMBIA:VETERINARY EDUCATION PROJECT'S JOINT COMMITTEE .....	47
4. MINUTES OF A SPECIAL STAFF MEETING .....	76
5. PRESS RELEASE .....	79
6. J O C V 獣医隊員について .....	80
7. HANDBOOK 1985-86, SCHOOL OF VETERINARY MEDICIUE .....	83
8. ANNUAL REPORT 1983, NATIONAL PARKS AND WILDLIFE SERVICE .....	111

## 第1章 計画打合せ調査団の派遣

### 1. 経緯及び目的

ザンビア大学獣医学部技術協力計画(The University of Zambia:Veterinary Education Project)は、昭和60年1月に派遣された実施協議調査団により討議々事録(R/D)が署名交換され、同年1月より向う5ヶ年間の予定で技術協力が開始された。

今回の調査団の派遣目的は本プロジェクトの進捗状況、問題点を把握し、ザンビア大学関係者と①ザンビア大学の獣医教育計画、教官採用計画等の確認②協力期間内の協力計画に関する協議③61年度実行計画(専門家派遣、機材供与、研修員受入れ、モデルインフラ等)に関する協議④他の研究機関との研究協力計画に関する協議⑤家畜疾病予防計画に関連する獣医学普及計画に関する協議⑥その他関連事項の協議、調査等であり、次に示す構成で計画打合せ調査団が派遣された。

### 2. 調査団の構成

担当業務	氏名	所 属
団 長	尾 形 學	麻布大学獣医学部教授 日本獣医学会会長
獣医教育	金 川 弘 司	北海道大学獣医学部教授
業務調整	山 縣 正 安	国際協力事業団農業開発協力部 畜産開発課課長代理

### 3. 調査日程

月日	曜	調 査 日 程	宿 泊
1. 17	金	07:30 ルサカ着 (QZ005) 11:00 大使館表敬訪問及び調査打合せ 14:30 UNZA副学長及び副学長補表敬訪問 15:30 JOCV駐在員事務所訪問及び調査打合せ	Intercontinental Hotel
18	土		同上
19	日	9:00~16:00 専門家チームとの打合せ (石谷リーダー宅)	同上
20	月	9:00~12:00 獣医学部との第一回打合せ (鉱山学部会議室) 14:30~16:30 " 第二回打合せ ( " )	同上
21	火	8:30~ 獣医研究機関視察 - 9:00 NCSR, 11:00 Dept. of Wild Life, 12:00 Dept. of Fisheries	同上
22	水	10:00~12:00 第一回合同委員会 (meeting room) 14:30~16:00 獣医学部校舎建設現場視察	同上
23	木	9:00~12:00 専門家チームとの打合せ 14:30~17:00 年次実行計画のとりまとめ (大使館会議室)	同上
24	金	10:00~12:00 第二回合同委員会 (meeting room) TSIへの署名 14:30~15:30 大使館への調査結果報告	同上
25	土	資料整理	同上
26	日	22:25 ルサカ発 (QZ002)	
29	水	17:00 成田着 (JL422)	

### 4. 訪問機関及び面会者

#### (1) UNIVERSITY OF ZAMBIA

DR. J. M. MWANZA

VICE CHANCELLOR

PROF. B. F. MWEENE

DEPUTY VICE CHANCELLOR

MS. J. M. F. CALDER

OFFICE OF THE VICE CHANCELLOR

PROF. R. P. LEE

DEAN, SCHOOL OF  
VETERINARY MEDICINE

PROF. J. HOUSKA

ACADEMIC STAFF OF SCHOOL OF  
VETERINARY MEDICINE

- |   |   |
|---|---|
| PROF. C. E. A. LOVELACE                           | ACADEMIC STAFF OF SCHOOL OF<br>VETERINARY MEDICINE        |
| DR. T. O. M. KOOMSON                              | " "   |
| DR. M. BAFI-YEBOA                                 | " "   |
| DR. M. N. SHANDOMO                                | " "   |
| MR. K. M. MIZINGA                                 | " "   |
| MR. J. GRIFFIN                                    | CHIEF TECHNICIAN  |
| MR. J. MWANZA                                     | ADMIN. ASST. TO DEAN                                      |
| (2) NATIONAL COUNCIL FOR SCIENTIFIC RESEARCH      |   |
| DR. J. A. S. CHIPEPA                              | LIVESTOCK AND PEST RESEARCH CENTER                        |
| DR. D. M. WANCHINGA                               | " , ECOLOGY LAB.  |
| MR. S. MULEYA                                     | " , MICROBIOLOGY LAB.                                     |
| DR. J. PURAKAL                                    | " , TOXICOLOGY LAB.                                       |
| DR. F. P. ZULU                                    | " , TAXONOMY LAB.   |
| MR. SIMWANZA. F. J.                               | " , TSETSE PROGRAMME                                      |
| DR. M. OMAR                                       | " , REPRODUCTION  |
| (3) MINISTRY OF LANDS AND NATIONAL RESOURCES      |   |
| DR. S. M. YAMBA                                   | DIRECTOR. DEPT. OF NATIONAL<br>PARKS AND WILDLIFE SERVICE |
| DR. A. N. MWENYA                                  | CHIEF WILDLIFE WARDEN                                     |
| DR. A. B. KAWECHE                                 | CHIEF WILDLIFE RESEARCH<br>OFFICER                        |
| (4) MINISTRY OF AGRICULTURE AND WATER DEVELOPMENT |   |
| MR. P. K. MUSHINGE                                | DEPUTY DIRECTOR, DEPT. OF FISHERIES                       |
| (5) 在ザンビア日本大使館                                    |   |
| 太田正利  | 特命全權大使  |
| 今川好則  | 参事官   |
| 小竹康史  | 二等書記官   |
| 石田享平  | "   |
| 宮川忠男  | 専門調査員   |
| (6) 青年海外協力隊事務局ザンビア駐在員事務所                          |   |
| 山口廣治  | 駐在員   |
| 小瀬川修  | 調整員   |
| 稲見廣政  | "   |

- (7) 日建設計株式会社  
 佐藤 睦 生                      監 理 主 管  
 工 野                      潤
- (8) 消水建設株式会社ザンビア大学獣医学部新築工事作業所  
 三 輪 道 郎                      所 長
- (9) 日商岩井株式会社  
 原                      雄 二                      ルサカ駐在員事務所所長  
 近 藤 嘉之助                      "                      (原氏の後任)
- (10) 日本人専門家  
 石 谷 類 造                      チーム・リーダー兼病理学  
 清 水 亀平次                      微 生 物 学  
 北 岡 茂 男                      外部寄生虫学  
 多 田 融 右                      内部 "                      "  
 寺 村 政 衛                      総 括 調 整  
 橋 本 栄 治                      業 務 調 整

## 第2章 計画打合せの概要及び結果

### 1. 要 約

本調査団は1986年1月17日～26日の10日間に亘ってザンビア大学獣医学部技術協力計画の実施状況について、その進捗状況の調査、現地で活躍中の専門家との打合せ及びザンビア大学側との会合や相談を行い、今後本計画がスムーズに進展するように努力を払った。特にザンビア大学側とは3回に亘る会合を持ち1月24日には、5年間の計画に合意をみて暫定実施計画書(TENTATIVE SCHEDULE FOR THE IMPLEMENTATION OF THE UNIVERSITY OF ZAMBIA: VETERINARY EDUCATION PROJECT)について、サインを行った。これら会合や計画書の詳細については別途資料を添付したが、それ以外で参考になると考えられる点について簡単に記述した。

昨年10月から講義、実習に参加した、日本側各専門家は、資材や教材不足の困難な状況の中でリーダーを中心に協力し合い工夫と努力によって授業を続けており、学部長はじめ、ザンビア大学側から信頼と感謝を受けている。

ザンビア大学の外国人教官採用計画は、最近の現地通貨の価値低下に伴っていよいよ困難となり、計画通りには進展していない。教官ばかりではなしに、テクニシャンや秘書に



しても数名しか採用されておらず今後の大きな問題と考えられる。

カリキュラムについては、今秋10月から(86/87年度) Dept. of Disease Controlと Dept. of Clinical Studies の2講座に関連した学科目を開講することになった。

獣医学部の建設状況はほぼ90%が完了し、器具機材の殆んどは各研究室などに配置されつつあり良好な状態と考えられた。車輛についても問題がなく、特にミニバスは学生の実習用に毎週利用されており有効に活用されていた。しかし、ザンビア大学他学部との関連から、もう1台のミニバスが獣医学部に追加されることは好ましくないとの現地意見があった。

各専門家の家財備品や車輛等の輸送、現地到着にも殆んど問題は無かったが車輛部品の一部が紛失したり、専門家の住宅で盗難に会った例が発生している。今後は、専門家の住宅と種々の高価な機材が搬入された獣医学部内の保安状況について、何らかの対応を検討しなければならないであろう。

モデル・インフラ整備事業(Veterinary Paddock)についてザンビア大学側は、大きな期待を寄せており、現地専門家も、ザンビアの国策である山羊の飼育を通じて教育と研究面で成果を上げたいと希望している。

本調査期間中に4ヶ所の獣医畜産関連の研究機関などを視察したが、ザンビア大学獣医学部は今後これら既設の関連機関と十分な連繋をとり教育、研究上の効果を上げることが望まれる。

専門家の住宅については、民間住宅借り上げが3戸でザンビア大学官舎入居者が3名、更に2戸が日本人専門家用として確保されている。しかし、現地の状況から今後も継続して大学側の官舎が確保されることには困難が予想される。

現地通貨の価値は低下したが、ドル生活者の経済的負担は少なく、日常生活物資も順調に流通している。しかし、現地通貨での一般ザンビア人の生活は苦しくなり、経済状況については、今後の推移を注意深く見守る必要がある。

## 2. 専門家派遣計画

### (1) 長期専門家

86/87年度に派遣される長期専門家について、管理部門、アカデミックスタッフ及びテクニカルスタッフの派遣が検討された。

このうち、清水教授については1986年10月より疾病予防学講座(Dept. of Disease Control)へ移ることが確認された。

又、臨床(外科学)の教授を予定されていた吉田氏は健康診断の結果、問題のある

ことが判明し、派遣は取り止めとなったので替りの専門家の派遣を検討することとなった。

ザンビア大学側から要望のある臨床病理の学科目については、国内に1名の希望者が居るので国内委員会を経て検討されることになった。その他の長期専門家については、別表・専門家派遣計画のとおりである。

## (2) 短期専門家

85/86年度に派遣される短期専門家について病理学 (Veterinary Pathology)、ウイルス学 (Virology)、免疫学 (Immunology) の各学科目について各々、1ヶ月～3ヶ月の派遣計画が討議され了承された。獣医公衆衛生学 (Veterinary Public Health and Food Hygiene) の学科目については86/87～87/88年度に3～6ヶ月の短期専門家で対応、88/89年度以降は長期専門家派遣が検討された。

モデルインフラ整備事業の施行管理専門家 (Supervisor) として1名の短期専門家が6ヶ月間 (2月～8月) に亘って派遣される。

## (3) JOCV

青年海外協力隊員について86/87年度に更に2名の追加派遣が検討され了承された。

Teaching Assistantの活動分野については、85/86年度の3名はそれぞれ病理学、微生物学及び寄生虫学の分野を主に協力・援助し、86/87年度の2名は臨床病理及び臨床分野を主体に協力することが検討され、確認された。

## 3. 研修員受入計画

ザンビア人カウンター・パートの日本人における技術研修及び視察研修については、年間2～3人の枠がある旨の説明がなされ、85/86年度については、放射線技師 (Radiologist) の研修が検討された。しかし、ザンビア人カウンター・パートが極端に少なく、枠通りの研修が可能かどうかについては、今後の検討課題となった。

## 4. 機材供与計画

85/86年度については、総額9千万円の機材供与であり、このうち8千万円は獣医学部へ及び1千万円はVeterinary Paddockへ向けられることが了解された。なお、調査団より86/87年度以降の機材供与額は漸減する可能性があることを示唆した。

なお、申請手続に関し、一連の要請フォーム (A<sub>1</sub>～A<sub>4</sub>) 提出プロセスにおいて、ザンビア側技術協力の窓口である大蔵省での手続に相当の日時を要することが討議され、これらのプロセスを短縮するための事務手続の簡素化について、今後検討されることとなった。

専門家派遣計画

協力期間 (1985年1月22日～1990年1月21日)	5年間				
	I 1985 12月1月	II 1986 12月1月	III 1987 12月1月	IV 1988 12月1月	V 1989 12月1月 1990 1月1月
ザンビア大学・学年次 (10月～7月)	1984 10月 ～ 1985 7月	1985 10月 ～ 1986 7月	1986 10月 ～ 1987 7月	1987 10月 ～ 1988 7月	1988 10月 ～ 1989 7月 1990 7月
I. 長期専門家					
1. 管理部門					
(1) チーム・リーダー	8月				
(2) 総括調整員	5月				
(3) 業務調整員	6月				
2. 教官					
(基礎獣医学講座)					
(1) 家畜病理学(教授)	8月				
(2) 家畜病理学(講師)					
(3) 家畜微生物学(教授)	8月				
(4) 家畜寄生虫学・昆虫学(助教授→教授)	8月				
(5) 家畜寄生虫学・蠕虫学(講師)	8月				
(疾病予防学講座)					
(1) 伝染病及び疫学(教授)					
(2) 公衆衛生学(教授)					
(3) 臨床病理学(教授)					
(臨床獣医学講座)					
(1) 外科学及び放射線学					

協力期間 5年間 (1985年1月22日～1990年1月21日)		I		II		III		N		V		
		1984 10月	1985 7月	1985 10月	1986 7月	1986 10月	1987 7月	1987 10月	1988 7月	1988 10月	1989 7月	1990 7月
ザンビエ大学・学年次 (10月～7月)												
3. 技官 (セントラル・サービス)			2月									
(1) 上級技官												
II. 短期専門家 (基礎獣医学講座)												
(1) 家畜病理学(3カ月)			4月									
(2) ウイルス学(1カ月)			2月									
(3) 免疫学(3カ月)			3月									
(疾病予防学講座)												
(1) 公衆衛生学 (モデルインフラ整備事業)												
(1) 施行管理												
III. 青年海外協力隊												
(1) 教官助手(家畜病理学)												
(2) " (家畜伝染病学)												
(3) " (家畜寄生虫学・昆虫学)												
(4) " ( " ・ 蠅虫学)												
(5) " (家畜臨床獣医学)												

## 5. モデルインフラ整備事業

Veterinary Paddockの工事は1986年2月から5～6カ月の予定であり、これに必要な施行管理専門家の要請書(A<sub>1</sub>フォーム)とポンプ等必要機材のA<sub>4</sub>フォーム提出が必要である旨の説明がなされ了承された。

## 6. 暫定実施計画

11ページのとおり。

# 第3章 その他関連事項

## 1. JOCVのプロジェクト参加とアカデミック・スタッフへの登用について

Teaching Assistantとして一定の経験を経たJOCV隊員が、専門家(Lecturer)として派遣される場合においてもザンビア大学の任用委員会を通過することが必要であり、この場合にかかなりの業績が要求されることが表明された。従って将来ザンビア大学のアカデミック・スタッフを希望するJOCV隊員(Teaching Assistant)は、各自の研究テーマなどについて派遣期間中に専門家の指導の下に研究上の業績を上げるような途を開くことを、ザンビア側及び日本側の双方で検討すべきである旨の議論があった。

## 2. 日本人専門家のステータスについて

日本人専門家のワーク・パミット取得の可否については、ザンビア国側の法的な手続を要する問題なので、ザンビア大学側もその取扱いに苦慮しており、更に継続した検討が望まれる。しかし、専門家入国後の種々の手続上、遅延がないような配慮を行いたい旨の表明があった。

## 3. カリキュラムについて

疾病予防学講座(Dept. of Disease Control)と臨床獣医学講座(Dept. of Clinical Studies)は、基本設計時の考え方通りに明らかに分離されるべきであり、それぞれの講座に属する学科目についても討議されたが、その詳細については更に具体的な検討が望まれた。

## 4. 獣医学部の保守対策について

無償資金協力及び技術協力により供与された資機材及び車輛等の盗難防止と保安対策について討議が行われ、今後の重要課題の1つとして十分に検討することが望まれた。

5. 病理学・微生物学・寄生虫学講座の名称変更について

本講座がParaclinical Studiesとなったことは了解したが、調査団よりR/D記載上の事項変更については事前にJICAとの協議が望まれることを表明し、ザンビア大学側もこれを了承し、今後は改善されることとなった。

6. 日本人専門家とJOCV隊員の住宅について

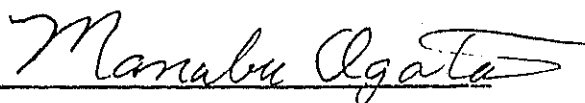
専門家用8棟及びJOCV隊員用3棟の住宅確保について検討が行われザンビア大学側から努力と約束の表明がなされた。特にJOCV隊員については、JICAから住宅費援助の途がないこと、および1棟を複数の隊員が共用することは、生活上好ましくない旨の表明があり、ザンビア大学も理解を示した。

TENTATIVE SCHEDULE FOR THE IMPLEMENTATION  
OF  
THE UNIVERSITY OF ZAMBIA: VETERINARY EDUCATION PROJECT

The Leader of the Japanese Consultation Survey Team and the Deputy Vice Chancellor, University of Zambia have jointly formulated the Tentative Schedule for the Implementation of the Project as annexed hereto.


This has been formulated in connection with the Attached Document of the Record of Discussions signed on January 22, 1985 between the Leader of the Japanese Implementation Survey Team and the Acting Permanent Secretary of National Commission for Development Planning, for the University of Zambia : Veterinary Education Project on the conditions that necessary budget will be allocated for the implementation of the Project by both sides, and that the Schedule is subject to change within the framework of the Record of Discussions when necessity arises in the course of implementation of the Project.

LUSAKA, January 24, 1986



Prof. MANABU OGATA

Leader,  
The Japanese Consultation  
Survey Team,  
Japan International  
Cooperation Agency,  
JAPAN



Prof. B. F. MWEENE

Deputy Vice Chancellor,  
University of Zambia,  
Republic of ZAMBIA

TENTATIVE ANNUAL WORK PLAN

Japanese Cooperation Duration: 5 years from January 22, 1985 to January 21, 1990		I		II		III		IV		V	
		Jan. 1985 ~ Oct. 1985	Jan. 1985 ~ Jul. Oct.	Dec. 1986 ~ Jul. Oct.	Jan. 1987 ~ Jul. Oct.	Dec. 1987 ~ Jul. Oct.	Jan. 1988 ~ Jul. Oct.	Dec. 1988 ~ Jul. Oct.	Jan. 1989 ~ Jul. Oct.	Dec. 1989 ~ Jul. Oct.	Jan. 1990 ~ Jul. Oct.
UNZA Academic Year (October ~ July)		1985 Oct.	1985 Jul. Oct.	1986 Jul. Oct.	1987 Jul. Oct.	1987 Jul. Oct.	1988 Jul. Oct.	1989 Jul. Oct.	1989 Jul. Oct.	1990 Jul.	
(( UNZA ACTIVITIES ))											
I. Start of departments											
1 Department of Biomedical Sciences											
2 Department of Paraclinical Studies (Veterinary Pathology, Parasitology, Microbiology)											
3 Department of Disease Control											
4 Department of Clinical Studies											
II. Veterinary student enrolment											
1 Intake		19	19		40		40		40	40	
2 Graduation		-	-		-		13		19	19	
3 Total		32	51		91		118		139	160	
III. Start of the post-graduate course											
IV. Staffing projections											
1 Dean											
2 Professors											
3 Assoc. Professors											
4 Lecturers											
5 Pharmacist											
6 Radiologist											
7 C. Technicians											
8 S. Technicians											
9 Technicians											
10 Teaching Assistants											
11 Secretaries											
12 Administrative Officers											
13 Miscellaneous											
Total											
		number required	present number including process of filling	short fall							
		1	1								
		4	3								
		11	3								
		16	11								
		1	-								
		1	-								
		5	2								
		9	2								
		15	6								
		5	3								
		9	6								
		2	1								
		36	n.a.								
		115	38 +								



Japanese Cooperation Duration:		I	II	III	IV	V						
5 years from January 22, 1985 to January 21, 1990		Jan. 1985	Dec. 1985	Jan. 1986	Dec. 1986	Jan. 1987	Dec. 1987	Jan. 1988	Dec. 1988	Jan. 1989	Dec. 1989	Jan. 1990
UNZA Academic Year (October ~ July)		1984 Oct.	1985 Jan. - Oct.	1986 Jan. - Oct.	1986 Jan. - Oct.	1987 Jan. - Oct.	1987 Jan. - Oct.	1988 Jan. - Oct.	1988 Jan. - Oct.	1989 Jan. - Oct.	1989 Jan. - Oct.	1990 Jan. - Oct.
<p><u>PROJECT ACTIVITIES</u></p> <p>I. Veterinary Education</p> <p>1. Curriculum planning of the subjects (Department of Biomedical Sciences) Department of Paraclinical Studies Department of Disease Control (Department of Clinical Studies)</p> <p>2. Lecture, laboratory work and field practice to veterinary students (Department of Biomedical Sciences) Department of Paraclinical Studies Department of Disease Control (Department of Clinical Studies)</p> <p>3. Development and production of teaching materials</p> <p>4. Collection and analysis of veterinary information and data</p> <p>5. Other necessary work for veterinary education</p>												

Japanese Cooperation Duration:		I	II	III	IV	V	
5 years from January 22, 1985 to January 21, 1990		Jan. 1985	Dec. 1986	Jan. 1987	Dec. 1988	Jan. 1989	Dec. 1990
UNZA Academic Year (October ~ July)		1985 Oct. ~ Jul.	1986 Oct. ~ Jul.	1987 Oct. ~ Jul.	1988 Oct. ~ Jul.	1989 Oct. ~ Jul.	1990 Oct. ~ Jul.
II. Veterinary Research							
1. Survey of animal diseases in Zambia							
2. Research on diagnostic method of animal diseases							
3. Development of animal vaccines and other biologicals							
4. Studies of experimental immunization and preventive medicine for animal diseases							
5. Administrative collaboration of animal diseases and public health							
6. Applied research and dissemination of scientific and technical information							

Japanese Cooperation Duration:		I		II		III		IV		V	
5 years from January 22, 1985 to January 21, 1990		Jan. 1985	Dec. 1985	Jan. 1986	Dec. 1986	Jan. 1987	Dec. 1987	Jan. 1988	Dec. 1988	Jan. 1989	Dec. 1989
UNZA Academic Year (October ~ July)		1985 Jul. - Oct.	1985 Oct. - Jan.	1986 Jul. - Oct.	1986 Oct. - Jan.	1987 Jul. - Oct.	1987 Oct. - Jan.	1988 Jul. - Oct.	1988 Oct. - Jan.	1989 Jul. - Oct.	1989 Oct. - Jan.
III. Veterinary Extension 1. Clinical services at the Veterinary Hospital 2. Farm veterinary services 3. Dissemination of animal health and public health knowledge											
* Cooperation activities with other related schools of UNZA such as School of Agricultural Sciences, School of Medicine and School of Natural Sciences.											

Notes: 1. These activities will be carried out mainly in the Department of Paraclinical Studies and the Department of Disease Control, the School of Veterinary Medicine, UNZA.

2. With reference to research activities of the Project, collaboration will be encouraged with Central Veterinary Research Institute, Zambian Institute of Animal Health, Regional Veterinary Laboratories under the Department of Veterinary and Tse-tse Control Services, Ministry of Agriculture and Water Development and the National Council for Scientific Research.



Japanese Cooperation Duration:		I	II	III	IV	V	
5 years from January 22, 1985 to January 21, 1990		Jan. 1985 ~ Oct. 1985	Jan. 1986 ~ Dec. 1986	Jan. 1987 ~ Dec. 1987	Jan. 1988 ~ Dec. 1988	Jan. 1989 ~ Dec. 1989	
UNZA Academic Year (October ~ July)		1984 ~ Oct. 1984	1985 ~ Jul. Oct.	1986 ~ Jul. Oct.	1987 ~ Jul. Oct.	1988 ~ Jul. Oct.	1989 ~ Jul. Oct.
3. Technical staff (Central Services) (1) Senior Technician			FEB.				
B. Short-term (Department of Paraclinical Studies) (1) Veterinary Pathology (3 months) (2) Virology (1 month) (3) Immunology (3 months)  (Department of Disease Control) (1) Veterinary public health and food hygiene  (Model Infrastructure Improvement Work) (1) Supervisor for construction			APR. JUL. FEB. MAR. MAR. JUN.	(3M)  (6M)	(3M)  (6M)	(3M)	
C. Japan Overseas Cooperation Volunteers (1) Teaching Assistant (Veterinary Pathology) (2) " ( " Communicable Diseases) (3) " ( " Parasitology, Entomology) (4) " ( " Parasitology, Helminthology) (5) " ( " Clinical Pathology)			FEB. (6M) AUG.				

Japanese Cooperation Duration:		I		II		III		IV		V	
5 years from January 22, 1985 to January 21, 1990		Jan. 1985	Dec. 1985	Jan. 1986	Dec. 1986	Jan. 1987	Dec. 1987	Jan. 1988	Dec. 1988	Jan. 1989	Dec. 1989
UNZA Academic Year (October ~ July)		1984 Oct.	1985 Jul./Oct.	1986 Jul./Oct.	1986 Jul./Oct.	1987 Jul./Oct.	1987 Jul./Oct.	1988 Jul./Oct.	1988 Jul./Oct.	1989 Jul./Oct.	1990 Jul.
II. Equipment Supply Scheme	Equipment and materials to be provided based on annual supply scheme.	MAR. O	MAR. X	MAR. O	MAR. X	MAR. O	MAR. X	MAR. O	MAR. X	MAR. O	MAR. X
		fiscal 84/85	fiscal 85/86								
		60,000,000 YEN	90,000,000 YEN								
			( 80 mil. 10 mil.								
III. Counterpart Training Scheme	Two or three Zambian counterparts to be received in Japan annually. (technical training and observation)	SEP. O	DEC. X	SEP. O	DEC. X	SEP. O	DEC. X	SEP. O	DEC. X	SEP. O	DEC. X
IV. Special Measures of Model Infrastructure Improvement Programme for construction of Veterinary Paddock attached to School of Veterinary Medicine.											

- Notes: 1. A team leader will be designated from among the long-term experts.
2. The facilities for the School of Veterinary Medicine will be constructed by February 1986 by Japanese Grant Aid.
3. Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV) will be assigned under Exchange of Notes dated April 19, 1970.
4. Minor equipment will be accompanied by Japanese experts beside Equipment Supply Scheme.
5. Procurement of equipment will require ten to twelve months upon receipt of application form (A4) until arrival of goods at Lusaka except for air-shipment.
6. Counterpart training in Japan does not mean an academic fellowship in the universities in Japan.
7. \_\_\_\_\_ full activities  
 ----- preparatory and follow up activities  
 ----- supplementary activities

Japanese Cooperation Duration:									
I		II		III		IV		V	
Jan. 1985	Dec. 1985	Jan. 1986	Dec. 1986	Jan. 1987	Dec. 1987	Jan. 1988	Dec. 1988	Jan. 1989	Dec. 1989
~	1985 Jul. Oct.	~	1986 Jul. Oct.	~	1987 Jul. Oct.	~	1988 Jul. Oct.	~	1989 Jul. Oct.
1981 Oct.									
5 years from January 22, 1985 to January 21, 1990									
UNZA Academic Year (October ~ July)									
<u>ZAMBIAN RESPONSABILITIES</u>									
I. Counterparts									
1. Head of the Project									
2. Academic staff									
(1) Professor									
(2) Associate Professor									
(3) Senior Lecturer									
(4) Lecturer									
(5) Chief technician									
(6) Technician									
(7) Teaching Assistants									
3. Administrative Personnel									
(1) Lusaka Campus administration									
II. Provision of running expenses of the Project									
III. Provision of land, buildings and facilities									

ザンビア大学獣医学部技術協力プロジェクト  
暫定実施計画（仮訳）

日本側計画打合せ調査団団長とザンビア大学副学長補は、ここに添付されたプロジェクト暫定実施計画を共同で作成した。

この計画は、1985年1月22日、日本側実施協議調査団団長と国家開発計画省次官補との間で署名された討議議事録に関連し、プロジェクト実施のため双方により必要な予算が確保されることを前提として策定された。

当計画は当該プロジェクトの実施段階において必要が生じた場合、討議議事録の枠内で変更されるものとする。

ルサカ、1986年1月24日

尾形 學 教授  
計画打合せ調査団長  
国際協力事業団  
日 本 国

B. F. MWEENE 教授  
ザンビア大学副学長補  
ザンビア共和国



暫定実行計画

協力期間 (1985年1月22日～1990年1月21日)	5年間					1989年12月	1989年10月	1989年7月	1989年12月	1990年1月
	I 1985年12月 1985年7月	II 1986年12月 1986年7月	III 1987年12月 1987年7月	IV 1988年12月 1988年7月	V 1989年12月 1989年7月					
ザンビア大学・学年次 (10月～7月)	1984年10月	1985年10月	1986年10月	1987年10月	1988年7月	1988年10月	1989年7月	1989年10月	1989年12月	1990年7月
<b>【ザンビア大学獣医学部活動計画】</b>										
<b>I. 講座開始時期</b>										
1. 生物医学講座										
2. 基礎獣医学講座 (病理学・微生物学・寄生虫学講座)										
3. 疾病予防学講座										
4. 臨床獣医学講座										
<b>II. 登録予定学生数</b>										
1. 入学	19	19	40	40	40	40	40	40	40	40
2. 卒業	-	-	-	-	13	13	19	19	19	19
3. 計	32	51	91	118	139	139	139	160	160	160
<b>III. 大学院教育開始時期</b>										

IV. 教職員充足計画

	計画数	現員(含, 手続中)	不足数
1. 学 部 長	1	1	—
2. 教 授	4	3	1
3. 助 教	11	3	8
4. 講 師	16	11	5
5. 薬 劑 師	1	—	1
6. 放射線技師	1	—	1
7. 主 席 技 官	5	2	3
8. 上 級 技 官	9	2	7
9. 技 官	15	6	9
10. 教 官 助 手	5	3	2
11. 秘 書	9	6	3
12. 事 務 員	2	1	1
13. そ の 他	36	—	—
合 計	115	38	—

協 力 期 間 5 年 間 (1985年1月22日～1990年1月21日)		I		II		III		IV		V	
		1985 10月 ～ 1985 7月	1985 12月 ～ 1986 7月	1986 12月 ～ 1987 10月	1987 12月 ～ 1987 7月	1987 10月 ～ 1988 7月	1988 12月 ～ 1988 10月	1989 12月 ～ 1989 7月	1989 10月 ～ 1990 7月		
ザンビア大学・学 年 次 (1984年10月～1985年7月)											
<u>プロジェクト活動計画</u>											
I. 獣医教育											
1. カリキュラム企画 (生物医学講座) 基礎獣医学講座 疾病予防学講座 (臨床獣医学講座)											
2. 獣医学部学生に対する講義, 実験実習, 野外実習 (生物医学講座) 基礎獣医学講座 疾病予防学講座 (臨床獣医学講座)											
3. 教材の開発											
4. 獣医情報, データの収集, 分析											
5. その他の獣医教育に必要な活動											

協 力 期 間 5 年 間 (1985年1月22日～1990年1月21日)		I		II		III		IV		V	
1985	1985	1986	1986	1987	1987	1988	1988	1989	1989	1990	1990
12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月	12月
1984	1985	1985	1986	1986	1987	1987	1988	1988	1989	1989	1990
10月	7月	10月	7月	10月	7月	10月	7月	10月	7月	10月	7月
ザンビア大学・学 年 次 (10月～7月)											
I. 獣医学研究											
1. ザンビアにおける家畜疾病の調査											
2. 家畜疾病の診断方法に関する研究											
3. 動物用ワクチン及び他の動物用生物学的製剤の開発											
4. 家畜疾病に対する試験的免疫・予防薬の研究											
5. 家畜疾病及び公衆衛生に対する行政的協力対応											
6. 科学的, 技術的情報の応用研究及び普及											
II. 獣医学普及											
1. 家畜病院における臨床活動											
2. 野外獣医臨床サービス											
3. 家畜衛生及び公衆衛生知識の普及											
※ 農学部, 医学部, 自然科学部等, 他の関連学部との協力活動											

(注) I. これらの活動は, 主としてザンビア大学獣医学部基礎獣医学講座及び疾病予防学講座を中心に実行される。

2. プロジェクトの研究活動に関連して, 農業水資源開発省獣医学ユニット・エリザベス女王学院及び国家科学研究会議と積極的に連携し協力を行う。

協力期間 5 年間 (1985年1月22日～1990年1月21日)		I		II		III		IV		V		
		1985 1月	1985 12月	1986 1月	1986 12月	1987 1月	1987 12月	1988 1月	1988 12月	1989 1月	1989 12月	1990 1月
ザンビワ大学・学年次 (10月～7月)		1984 10月	1985 7月	1985 10月	1986 7月	1986 10月	1987 7月	1987 10月	1988 7月	1988 10月	1989 7月	1990 7月
日本側の措置												
1. 専門家派遣計画												
A. 長期専門家												
1. 管理部門												
兼												
(1) チーム・リーダー			8月									
(2) 総括調整員			5月									
(3) 業務調整員			6月									
2. 教官												
(基礎獣医学講座)												
(1) 家畜病理学(教授)			8月									
(2) 家畜病理学(講師)					8月							
(3) 家畜微生物学(教授)			8月									
(4) 家畜寄生虫学・昆虫学(助教授→教授)			8月									
(5) 家畜寄生虫学・蠕虫学(講師)			8月									
(疾病子初学講座)												
(1) 伝染病及び疫学(教授)					※							
(2) 公衆衛生学(教授)												
(3) 臨床病理学(教授)												
(臨床獣医学講座)												
外科学及び放射線学												

協力期間 5 年間 (1985年1月22日～1990年1月21日)		I		II		III		IV		V			
		1984 10月	1985 7月	1985 10月	1986 7月	1986 10月	1987 7月	1987 10月	1988 7月	1988 10月	1989 7月	1989 10月	1990 7月
3. 技 官 (セントラル・サービス)				2月									
(1) 上級技官				4月 2月		7月 3月		(3ヵ月)		(3ヵ月)		(3ヵ月)	
B. 短期専門家 (基礎獣医学講座)													
(1) 家畜病理学 (3ヵ月)													
(2) ウイルス学 (1ヵ月)													
(3) 免疫学 (3ヵ月)													
( 疫病予防学講座 )													
(1) 公衆衛生学													
( モデルインフラ整備事業 )													
(1) 施行管理													
C. 青年海外協力隊													
(1) 教官助手 (家畜病理学)													
(2) " (家畜伝染病学)													
(3) " (家畜寄生虫学・昆虫学)													
(4) " ( " ・ 蠅虫学 )													
(5) " (家畜臨床獣医学)													

年度	1985		1986		1987		1988		1989		1990	
	1月	7月	1月	7月	1月	7月	1月	7月	1月	7月	1月	7月
<p>協 力 期 間 3 年 間 { 1985年1月22日～1988年1月21日 }</p> <p>サシビ子会 学：学 卒 迄 { 1985年10月～1988年7月 }</p>												
<p>Ⅰ. 機材供与計画 ア. プロシエクト活動計画 年次供与計画に基づく、供与機材</p>												
<p>1. 獣 医 教 育 1. カリキュラム企画 (生物医学講座) 基礎獣医学講座 疾病予防学講座 カウンスラーの研修受入計画 (臨床獣医学講座) 年間2～3名のザンビア人カウンスラーの日本受入 (技術研修及び視察) 2. 獣医学部学生に対する講義、実験実習、野外実習</p>												
<p>Ⅱ. 獣医学部付属牧場造成に係るモデル・インフラ整備計画の特別措置 疾病予防学講座</p>												
<p>(注) 1. 長期専門家の中よりチーム・リーダーが指名される。 2. 獣医学部の施設は日本の無償貸金協力により1986年2月までに建設される。 3. 若手若年海外協賛隊員(JOCV)1970年4月19日付の交換公文により派遣される。 4. 若干の機材は機材供与計画以外に日本人専門家により携行される。 5. 機材の調達は要請を随時、要請書(A4フォーマット)受理から、機材のルカカ到着まで10～12ヶ月を要する。 6. カウンスラーの日本の大学における研修は学位取得を意味するものではない。 7. 全面的な活動</p>												
<p>5. その他の獣医学部生に必要準備活動及びフォローアップ 補足活動</p>												

協力期間 5 年 間 (1985年1月22日～1990年1月21日)		I		II		III		IV		V			
		1985 12月	1985 10月	1986 7月	1986 10月	1987 7月	1987 10月	1988 7月	1988 10月	1989 7月	1989 10月		
ザンビア大学・学 年 次		1984 10月	1985 7月	1985 10月	1986 7月	1986 10月	1987 7月	1987 10月	1988 7月	1988 10月	1989 7月	1989 10月	1990 7月
ザンビア側の責務													
I. カウンタナー・パート													
1. プロジェクトの長													
2. 教 官													
(1) 教 授													
(2) 助 教 授													
(3) 上級講師													
(4) 講 師													
(5) 主席技官													
(6) 技 官													
(7) 教官助手													
3. 事務職員													
(1) ルサカ・キャンパス管理部													
II. プロジェクト運営費の確保													
I. 土地、建物、施設の確保													



THE UNIVERSITY OF ZAMBIA

RECORD OF DISCUSSIONS ON THE UNZA: VETERINARY EDUCATION PROJECT  
BY THE JOINT COMMITTEE (JICA MUTUAL CONSULTATION TEAM AND UNZA)  
HELD IN SENATE COMMITTEE ROOM 'A' AT 10:00 HOURS ON JANUARY 22,  
1986

---

Participants at the Meeting are listed in the attached Appendix 'A'

Opening Remarks:

The meeting was opened by the Chairman who welcomed all members and particularly Professor Ogata and his Colleagues.

AGREED to proceed by using the minutes of the meetings held in the School on January 20, 1986 as these recorded the deliberations made on the Agenda Papers and other relevant matters.

1. PROGRESS IN THE DEVELOPMENT OF THE SCHOOL OF VETERINARY  
MEDICINE UP TO 31ST DECEMBER, 1985

(a) (i) Recruitment of Academic Staff (Paper 1)

- (1) NOTED the contents of Paper 1 and the minuted discussions on this matter. (3.1).
- (2) NOTED that the School still had no one for Pharmacology or Protozoology but hoped that Professor Sseyonga from Makerere would be able to take up the offer of appointment for 3 months to teach the course in Protozoology in 1986
- (3) AGREED that as originally planned the Departments of Clinical Studies and Disease Control would operate as separate departments but recognized the need for them to start operating at the same time and to coordinate their activities closely.

(a) (ii) Recruitment of Technical Staff (Paper 2)

NOTED the contents of Paper 2 and the minuted discussions on this matter (3.2).

(a) (iii) Recruitment of Administrative and Secretarial Staff  
(Paper 3)

NOTED the contents of Paper 3.

(b) Curriculum Development (Paper 4)

(1) NOTED the contents of Paper 4 and the minuted discussions on this matter (3.4).

(2) NOTED that there are three vacation attachments when students would do practicals: at the end of 3rd year VMB 303 Farm Practical, the end of 4th year VMP 403 Veterinary Laboratory Practical and the end of 5th year VMC 503 Veterinary Clinical Practical.

INFORMED that practicals required good organization and administration with students and hosts farms being well briefed on expectations in order for them to be successful.

REPORTED that the farm practicals in 1985 had been for a period of 7 weeks and had overall been very satisfactory.

CLARIFIED that the period of attachment was originally to be for 10 weeks but this was reduced to 7 weeks by the School's Board of Studies. However the experience of the students involved resulted in a request to be made to revert to the 10 week attachment period.

(3) NOTED that this year students would be attached to laboratories. INFORMED that a survey had revealed that there were sufficient small clinical laboratories in the country to accommodate all the students.

SUGGESTED that research institutes at Balmoral, NCSR and the MAWD also be used for laboratory practicals.

(c) Equipment Supplies

(i) JICA (Paper 5)

NOTED the contents of Paper 5 and the minuted discussions held on this matter (3.5.1).

ALSO NOTED that although the RD document had indicated that JICA equipment funds should be utilized mainly for Paraclinical Studies and Disease Control the major portion of the funds had been used in Biomedical Sciences.

INFORMED that JICA in Japan adhered very strictly to the RD document and it would not be easy to obtain understanding and flexibility on the utilization of equipment funds.

NOTED the JICA Team's concern about this and AGREED that the financial report be produced in such a way that it would be more in accordance with what had been agreed upon in the RD document. However, EMPHASIZED that it would have been inappropriate to concentrate all the funds made available by JICA in only two Departments especially as there would have been very limited funding available to equip other Departments in the School. EXPLAINED that this situation would not have arisen had the request for assistance to the FAO been successful.

(ii) Other Agencies (Paper 6)

NOTED the contents of Paper 6 and the minuted discussions on this item (3.5.2).

DISCUSSED in general the matter of funding for the Project and AGREED that there was necessity to have funding provided with some flexibility.

NOTED that because the RD document stated that local expenditure would be provided by the Zambian Government, the Japanese members did not think it would be possible for JICA to allocate some local funds for emergency use by the JICA Experts' Team Leader.

(d) Financial and other Resources supplied by UNZA (Paper 7)

NOTED that the provision of the School's annual estimates (Paper 7) gave details of the size and extent of the University's contribution to the Project.

(e) The Veterinary Paddock Project (Paper 8)

NOTED the contents of the two papers and the minuted discussions on this item (3.7)

ACCEPTED the important contribution that this project would have to the development of the School and recognized the necessity of having paddocks for holding animals.

NOTED that the size of the paddocks was smaller than the area of land actually allocated. EXPLAINED that this was due to some indecision about where the road would be constructed and therefore the only area to be utilized was from the School buildings to the UNZA boundary on the Kalingalinga road.

INFORMED that the School of Veterinary Medicine like all other UNZA Schools would be able to use space on the UNZA farm if required.

(f) Co-operation with other Institutions (Paper 9)

NOTED the contents of Paper 9 and the minuted discussions on this item (3.8) CONCURRED with the Dean's feelings that the Project would only be successful if the School eventually became a centre for attracting researchers and other persons interested in Veterinary Medicine both from surrounding countries and abroad. The Committee NOTED the potential to cooperate with other institutions such as NCSR, the Department of National Parks and Wild Life and the Department of Fisheries who had each expressed interest in being incorporated into activities relating to the School.

(g) Training of Zambian Counterparts

NOTED the minuted discussions on this item (3.9)

(h) and (i) AGREED to include these issues under item 2.

2. MATTERS RELATING SPECIFICALLY TO JAPANESE PERSONNEL AND EXCHANGE OF VIEWS ON MAJOR ISSUES CONNECTED WITH THE JICA TECHNICAL CO-OPERATION PROGRAMME

---

(h) Housing

1. DISCUSSED matters regarding housing for both JICA Experts and JOCV Volunteers in some detail.
2. The Committee NOTED that of the six Experts here now, three were occupying University accommodation and the other three had made other arrangements for their accommodation.
3. NOTED that the University agreed to provide 3 additional houses for JICA Experts expected by September 1986.
4. FURTHER NOTED that the University agreed to try and meet the accommodation requirements for 3 JOCV Volunteers expected in August 1986.

(h) (ii) Employment Permits

1. DISCUSSED the issue of Employment Permits in some detail.
2. NOTED that this matter had been raised initially last January when the JICA Team had visited NCDP.
3. The Committee NOTED the concern expressed by the Japanese side on the matter of Employment Permits, in particular the necessity of these in respect of the Japanese Experts coming within the scope of the Project.
4. NOTED that the JICA Team expressed the wish to have this requirement waived. The Chairman stated that as this appeared to be a legal requirement not much could be done except to ensure there were no unnecessary delays in the procurement of Employment Permits.
5. In this respect it was AGREED that all communications would be directed through the JICA Liason Officer in the School of Veterinary Medicine rather than to the individual Experts as had been the practice so far. ALSO AGREED that the JICA Liason Officer would work closely with the University Secretary regarding these matters.
6. INFORMED that JOCV Volunteers had been in Zambia many years and had their own system of obtaining Employment Permits. NOTED that the University would not be asked to obtain Permits for JOCV Volunteers but would be required to pay the K100 Employment Permit fee for each of the Volunteers.e

(iii) Procedure for processing A<sub>1</sub>, A<sub>2</sub>, A<sub>3</sub> and A<sub>4</sub> Forms

1. NOTED that there had been delays in the past in processing of A Forms through the Ministry of Finance AND WONDERED whether it was not possible for the University's signatures only on these forms to be sufficient.
2. AGREED that this be investigated with the Ministry of Finance by the University and the Japanese Embassy.

3. NOTED that if this new arrangement were approved that the A Forms would go directly to the Japanese Embassy through the JICA Liason Officer at the School.

(i) JOCV Volunteers

NOTED the minuted discussions about JOCV Volunteers (3.11)

3. WORK PLAN

NOTED the contents of the Tentative Work Plan and the minuted discussions on this item (6)

ACCEPTED the corrected Work Plan presented to this Committee and NOTED it detailed all activities for the Project up to January 1990.

4. ANY OTHER BUSINESS

1. The Committee RECOGNIZED the serious risks regarding the security of the building and its contents. NOTED that these risks were compounded by the irreplaceable and very valuable equipment in the School and the location of the buildings which were at the extreme east-end of the Campus.
2. With respect to this the University promised to take this matter up urgently and institute appropriate measures.

In his concluding remarks the Chairman once again expressed deep appreciation to JICA for their substantial support towards implementing the Project over the next 5 years. Gratitude to the Irish Government and the British Council also was expressed for their continued generous contribution in helping to make this Project successful. The significance of the Project to the University and the country was expressed once more. The Deputy Vice-Chancellor in his concluding remarks also mentioned the keen interest of the President in the Project and that the University was able to report to His Excellency that the progress was good. This was due to the much appreciated generous assistance and collaborative efforts of JICA, HEDCO and the British Council.

Finally the Chairman also conveyed thanks to the work done by Professor Lee and the Japanese Experts and other members of Staff in the School.

AGREED to meet again on Friday January 24, 1986 to sign documents accepting the Work Plan.

The meeting was closed at 12:20 hours.

Confirmed: ..... Date:.....  
(Chairman)

APPENDIX 'A'

Members present at the Meeting of the UNZA: Veterinary Education Project  
JOINT COMMITTEE held on January 22, 1986

PRESENT:

- |                   |  |
|-------------------|--|
| Prof. B. Mweene   | - Acting Vice-Chancellor.(Chairman)                        |
| Prof. M. Ogata    | - JICA Mutual Consultation Team<br>(Team Leader)           |
| Prof. H. Kanagawa | - JICA Mutual Consultation Team                            |
| Mr. M. Yamagata   | - JICA Mutual Consultation Team                            |
| Prof. R.P. Lee    | - Dean, UNZA School of Veterinary Medicine                 |
| Prof. R. Ishitani | - UNZA, School of Veterinary Medicine                      |
| Dr. M. Shandomo   | - UNZA, School of Veterinary Medicine                      |
| Mr. E. Hashimoto  | - JICA Coordinator, UNZA: Veterinary<br>Education Project. |

IN ATTENDANCE:

- |                   |  |
|-------------------|--|
| Mr. H. Yamaguchi  | - Resident Representative, JOCV                                |
| Mr. T. Miyakawa   | - Attache, Embassy of Japan                                    |
| Ms. J.M.F. Calder | - (Recording Secretary) Office of the<br>Vice-Chancellor, UNZA |



THE UNIVERSITY OF ZAMBIA

RECORD OF DISCUSSIONS OF THE 1ST MEETING BETWEEN THE JICA MUTUAL  
CONSULTATION TEAM AND THE UNZA SCHOOL OF VETERINARY MEDICINE HELD IN THE  
SCHOOL OF MINES CONFERENCE ROOM ON JANUARY 20, 1986 AT 09:00 HOURS

A list of persons present at this meeting is in Appendix 'A'

1. WELCOME AND INTRODUCTIONS

The Dean opened the meeting by welcoming the JICA Mutual Consultation Team and by expressing thanks to JICA for their material and other support received by the School and also for the work they do in Japan for the Project.

2. AGENDA

2.1 INFORMED that the Agenda papers before the members were for study, information and discussion. ALSO INFORMED that the same agenda and papers would be used for the Joint Committee meetings to be held later in the week.

2.2 AGREED that additional papers may be added when necessary.

2.3 AGREED to adopt the agenda as presented

3. PROGRESS IN THE DEVELOPMENT OF THE SCHOOL OF VETERINARY MEDICINE

3.1 Recruitment - Academic Staff (Paper 1)

3.1.1 INFORMED that no response had yet be received to the request submitted to FAO and for practical purposes the application should be considered as being 'dead'.

Biomedical Sciences

3.1.2 APPRAISED of the academic staffing position in the Department of Biomedical Sciences. NOTED that out of an establishment of 8 posts 2 remained vacant - 1 in Biochemistry and 1 in Pharmacology. ALSO NOTED the continued efforts to recruit staff to fill these posts.

2/...

Paraclinical Studies

- 3.1.3 NOTED that with the anticipated arrivals of staff for the Department of Paraclinical Studies in the near future the approved establishment of 7 posts would be achieved leaving no vacant posts.
- 3.1.4 POINTED OUT that the name of this department - Paraclinical Studies was different to that recorded in the Record of Discussions (RD) document. REQUESTED that JICA be informed formally of this change and AGREED that such changes should, in future, be made in consultation with JICA.

Disease Control and Clinical Studies

- 3.1.5 INFORMED that because of the curriculum and the interdependence of the Departments of Disease control and Clinical Studies they had been considered collectively.
- 3.1.6 ALSO INFORMED, in relation to Disease Control and Clinical Studies that:-
- (i) 4 staff positions had been advertised in Ireland but 2 posts will be supplemented
  - (ii) Professor Yoshida will not be coming as his physical examination revealed he has a heart problem. JICA are looking for a alternative.
- 3.1.7 After considerable discussion AGREED that this Department should be divided into two separate departments but for administrative purposes they should be coordinated by a senior experienced Professor who would be appointed in one of the departments.
- 3.1.8 INFORMED that at the University of Hokkaido the same Clinical department staff work in the Veterinary Hospital which is headed by a Director. AGREED that the Clinical Studies Department should be responsible for the Hospital and Farm Animal Studies.
- 3.1.9 ACCEPTED the categories of staff required to cover the courses outlined for these two areas. In relation to appointments NOTED that in the developmental years it may be necessary to appoint more senior staff than approved in the establishment and FELT that this may happen anyway. AGREED that the recruitment and appointment of staff should be flexible and not tied completely to approved establishment posts.

3.1.10 ACCEPTED the problems faced regarding the recruitment of both Academic and Technical Staff. EXPLAINED that as recruitment was going on in a number of countries at different times it was difficult to know who was going to respond. AGREED in this regard that when a well qualified person has been found the appointment of that person should be made and the other countries informed instead of waiting to hear from all countries involved in the recruitment exercise.

### 3.2 Recruitment - Technical Staff (Paper 2)

3.2.1 NOTED the contents of Paper 2 regarding the current position on the recruitment of Technical Staff.

3.2.2. INFORMED of the continued difficulties faced in recruiting staff for the Chief and Senior Technician levels.

3.2.3 ALSO INFORMED that the School hoped to recruit one of the graduates in Radiography from Evelyn Hone College AND the School hoped that this candidate would be attached to a Radiography Department immediately either at the University of Hokkaido or elsewhere in Japan.

3.2.4 NOTED that of the 10 Technicians posts in Biomedical Sciences 8 will be filled shortly. Of the 9 posts in Paraclinical studies 7 should be filled in the near future. In the Department of Clinical Studies only 1 post is offered out of 12 established posts. No posts are filled of the 11 positions in Disease Control. AND of the 11 positions in Central Services only 1 is filled by Mr. Griffin and Mr. Hiruta is expected soon to take up the Senior Technician post.

3.2.5 ALSO NOTED that the Technical Staffing position in Biomedical Sciences is critical at the moment as regards Chief Technician.

### 3.3 Recruitment of Administrative and Secretarial Staff

3.3.1 INFORMED that this paper was for information only. NOTED the contents.

3.4 Curriculum Development (Paper 4)

3.4.1 INFORMED by the JICA Team that they felt the course work in the 6th year was very heavy. In Japan the 6th year is virtually free of course work so that students could devote their time to practical and thesis work.

3.4.2 EXPLAINED that although on paper it appears that there is a heavy course load it was understood that as many as possible of the Lectures and Theory of Veterinary Medicine etc. would be covered in the 5th year leaving the students free <sup>relative</sup> to concentrate on practical work in the 6th year.

3.4.3 Made the following corrections to this paper:-

- in 4th year, included VMA 450 Animal Production 1 unit.
- in 6th year, - altered VMC 615 to Clinical Pathology II

3.5 Equipment Supplies

3.5.1 From JICA (Paper 5)

3.5.1.1 INFORMED that the 1984/85 FY Budget was originally ¥60 million but the expenditure had been ¥75,763,072 24% of which had been spent on transportation of the equipment.

3.5.1.2 ALSO INFORMED that the 1985/86 FY Budget had been ¥70 million but that JICA had increased this to ¥90 million, ¥80 million for the School and ¥10 million for the Paddocks.

3.5.1.3 The School apologised to JICA for not using the budget allocation mainly for Paraclinical and Disease Control. EXPLAINED that it was necessary to use part of the equipment budget to make purchases for the other Departments otherwise these Departments would have had hardly anything and the development of all the Departments would have been lop-sided.

3.5.1.4 INFORMED that whilst the Consultation Team understood the reason for this they would have difficulty in having this accepted by JICA in Japan. REQUESTED that the financial report be put in a more acceptable form which would be more in accordance with what had been approved by the RD.

3.5.1.5 AGREED that the School should submit lists and make formal application for 1986/87 requests by the end of January 1986

- 3.5.1.6 NOTED that the costs for air transportation was from ~~3%-70%~~ of the value of the goods depending upon the weight and sea transport was about 13% of the value of the goods. AGREED that in future air transportation should be used only for the lighter equipment.
- 3.5.1.7 INFORMED that the equipment budget from JICA would be decreased in subsequent years and the School was requested to be aware of this.
- 3.5.2 Equipment supplies - other agencies (Paper 6)
- 3.5.2.1 NOTED the contents of Paper 6 on supplies from HEDCO and British Council.
- 3.5.2.3 INFORMED that the Dean had been given a local fund from HEDCO which could be used for meeting expenses for urgent local demands which can not be met by UNZA last year this had been used to buy basic equipment for students going on their practicals.
- 3.5.2.3 ALSO INFORMED that the School had just been advised by British Council that approval had been given for the purchase of equipment from funds set aside to train a technician. The School was not able to fill the training need and had requested that these funds be utilized to purchase equipment.
- 3.6 Financial and other resources supplied by UNZA (Paper 7)
- NOTED the contents of Paper 7 detailing the School's estimates for 1986 submitted to UNZA.
- 3.7 The Veterinary Paddock Project (Paper 8)
- 3.7.1 NOTED the contents of two papers which detailed the history and purposes of this Project: Infrastructure Improvement Work on the Construction of Veterinary Paddocks for the University of Zambia: Veterinary Education Project.
- 3.7.2 NOTED that a Supplementary Note on the RD document about the Paddocks had been signed on November 1, 1985.
- 3.7.3 AGREED on the necessity to complete application documents for a short-term expert to be recruited for a period of 5-6 months to supervise this project.

3.7.4 NOTED that the provision of paddocks would add valuable facilities to the School for the improvement of teaching and research.

3.8 Cooperation with other Institutions (Paper 9)

3.8.1 NOTED the contents of Paper 9 detailing areas of cooperation with institutions both within and outside Zambia.

3.8.2 EXPLAINED that the School was actively building up cooperative efforts with research institutes within Zambia. At the moment these contacts are made at the level of facilitating undergraduate instruction and felt that cooperation would improve when the School moved to its permanent buildings and when research activities commenced.

3.9 Training of Zambia Counterparts

3.9.1 NOTED that during 1985 Dr. Musonda had spent 3 months in Japan and Ms. Calder 3 weeks. REPORTED that their training had been both useful and enjoyable.

3.9.2 INFORMED that due to the fact that the School had very few Zambians it was not yet possible to fully utilize the funds set aside for training of Zambian counterparts.

3.9.3 NOTED the earlier request for the training/attachment of the Radiographer when this person is recruited.

3.9.4 INFORMED that counterpart training in Japan would be for periods of less than 1 year.

3.10 Matters relating specifically to Japanese personnel

3.10.1 Housing for Experts and Volunteers (Paper 10)

3.10.2 Employment Permits

AGREED that these matters should be brought for full discussion to the Joint Committee meeting to be held on January 22 as they involve the central administration and the Vice-Chancellor's Office.

3.11 Japanese Volunteers

3.11.1 INFORMED that the recruitment of three Volunteers would be finalized soon and that they will arrive in Zambia at the end of July beginning of August 1986.

3.11.2 NOTED that this Mission would be requesting the recruitment of more volunteers.

The Chairman closed the meeting at 12.00 hrs.

---

2nd Meeting held same day, same venue at 14.30 hrs.

4. AGREED that views had been adequately discussed with the JICA Technical Co-operation Programme in the morning session.

5. JAPANESE EXPERT ASSIGNMENT SCHEME

5.1 NOTED the contents of a paper detailing the long and short-term expert assignment scheme proposed by JICA for the duration of the Project. NOTED also that the assignment scheme indicated that experts would come for 3 year periods.

5.2 ACCEPTED the Japanese Experts Assignment scheme document.

6. 1986 WORK PLAN

6.1 NOTED the contents of the Tentative Annual Work Plan paper.

6.2 AGREED to make the following corrections/additions to page 1 of the Work Plan:-

- under II (1), altered the 1984/85 and 1985/86 Intake figures to 19
- under II (3), altered 1984/85 total to 32 and 1985/86 total to 51.
- under II (2), altered 1989/90 graduation figure to 19.
- under IV (4), altered number of Lecturers required to 16.

- under IV - added the following statistics

(11) Secretaries	9	6	3
(12) Admin. Staff	2	1	1
(13) Miscellaneous	36		
Totals	113-115	38	

6.3 AGREED to change termination date of Japanese Cooperation Duration from January 21, 1989 to 1990 on each page this date appears.

6.4 AGREED to extend lines of all activities to December 1989 to reflect correct period of activities.

6.5 AGREED to make the following alterations to information on page 3 (II Veterinary Research):-

- II 1. - to read, "Survey of Animal Diseases in Zambia"
- II 2. - to read, "Research on diagnostic methods of animal disease"
- II 5. - to read, "Administrative collaboration of animal diseases and public health"
- II 1 and 2 - solid line from October '86-December 1989
- II 3 and 4 - solid line from October '87-December 1989.
- II 5 and 6 - solid line from October '88-December 1989.

6.6 AGREED to the following alterations on page <sup>4</sup> (III Veterinary Education):-

- III 2 and 3 - solid line from October '86-December 1989.
- Cooperation activities...  
etc. - solid line from October '85  
- December 1989

6.7 AGREED to include the following on page 7:-

- IV - to read, "Special measures of model infrastructure improvement programme... etc.

6.8 NOTED that the headings listed for Research (page 3) are only Ideas or guidelines and they need not be rigidly adhered to. These broad research areas reflect what research the Japanese may be involved in.



- 6.9 INFORMED that due to the University's isolation from any centre for information and other Universities and the economic problems it was difficult to obtain research papers and publications quickly. Assistance in this regard REQUESTED.
- 6.10 INFORMED regarding the appointment of JOCV volunteers that candidates would be selected to fill the most pressing needs of the School and they would be attached to the Japanese experts.
- 6.11 ACCEPTED the Work Plan with the adjustments as listed above.

7. ANY OTHER BUSINESS

Office Accommodation

- 7.1 NOTED that was very little office accommodation for academic staff in the new buildings.
- 7.2 EXPLAINED that the School was a version of a Japanese model and that in Japan Staff and Students are accommodated within the laboratories with just areas of work space allocated.
- 7.3 NOTED that the Japanese system was very different and that due to the lack of security here staff did not feel they could leave books, notes etc. in the same room as students. INFORMED that due to inadequacy of office for staff in the new building it had been decided to allocate seminar rooms to staff in the same department.
- 7.4 AGREED to look at this matter in more detail when the site visit is made on 22nd January.

There being no further business the Chairman thanked members for their attendance and closed the meeting at 16:20 hours.

Confirmed:.....

Date:.....

Chairman

APPENDIX 'A'

Members present at the Meetings of the JICA Mutual Consultation Team and the School of Veterinary Medicine held on January 20, 1986.

---

1. JICA Mutual Consultation Team

Prof. M. Ogata - JICA Team Leader  
Prof. H. Kanagawa - JICA Team Member  
Mr. M. Yamagata - JICA Team Member

2. From the School of Veterinary Medicine

Professor R.P. Lee - Dean, School of Veterinary Medicine  
(Chairman)

Prof. J. Houska  
Prof. R. Ishitani  
Prof. S. Kitaoka  
Prof. C.E.A. Lovelace  
Dr. M. Bafi-Yebo  
Dr. T.O.M. Koomson  
Dr. M.N. Shandomo  
Dr. Y. Tada  
Mr. K.M. Mizinga  
Mr. J. Griffin - Chief Technician  
Mr. E. Hashimoto - JICA Coordinator/Liason Officer  
Mr. M. Teramura - JICA Coordinator  
Mr. J. Mwanza - Admin. Asst. to Dean

Academic Staff of the School of  
Veterinary Medicine.

3. In Attendance

Mr. H. Yamaguchi - JOCV Resident Representative  
Ms. J.M.F. Calder - Recording Secretary - Office of  
the Vice-Chancellor UNZA.